

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

10月下旬、長野県長寿社会開発センター白馬グループと就労継続支援B型事業所「クロスロード白馬」のメンバーによるセイダカア

ワダチソウの駆除が行われ参加する。これまでの人員だけでは、駆除が不可能とお願ひし、今回から白馬村の行政も参加、集落支援員の宮島佐登志さんと佐藤一石さんが、実情の見聞を兼ね作業への支援に。駆除する現場は荒廃農地や急斜面や移動困難な河川敷内での作業、年々厳しくなるばかりだ。

手順の立役者は、ボランティアで参加した白馬村切久保の桜井肇久さん。ソチオリンピックのノルディック複合ノーマルヒルで銀メダルを獲得した渡部暁斗選手の小中学時代のコーチとしても有名な

今回も時間の制約もあり多くの場所を残してしまった。白馬村行政ホームページの景观・環境分野の外来生物・外来植物のデータの中にセイダカアワダチソウハザードマップが掲載されているの

ゴウソウの駆除が行われたとの情報が発信された。地域の自然環境に大きな影響を与えるものを法律で「特定外来植物」として指定。今回は、特徴が類似する筒状花が黒紫色のルドベキア・アラゲハン

国で猛繁殖。白毛やトゲが特徴だが繁茂する生育速度が非常に高い上、一旦種子が落下すると一部は土の中で眠っていて翌々年以降も発芽する厄介な外来植物。ふるさとの情景

を後世に伝えるための地域教育の必要性を今年も強く感じた作業でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

ふるさとの情景を守る為に何が 必要か考え行動してみませんか

ゴウソウなどの駆除と情報を、筒状花が、黄緑色のオオハongoウソウ同様、非常に強い繁殖力を持つ植物なので、必ず抜き取り、速やかに袋に密封後焼却処分する事が求められている。



荒廃地での困難な駆除作業、この繰り返しが大切な自然を守っていく

が、特に植物にも造詣の深い人材。事前に村内での状況を把握、朝の打合せで具体的に指示。毎年抜き取り作業を行うのだが、完全な駆除が困難な上に、新たな繁殖場所が増え続けている。

で、自分が住む地域に生育箇所があるか調べ、ぜひ地域活動として駆除に取り組んでほしいと会員から声がかかる。

今年も、8月末から9月にかけて、区と地域住民によるオオハン

またクズとよく間違われるアレチウリも全